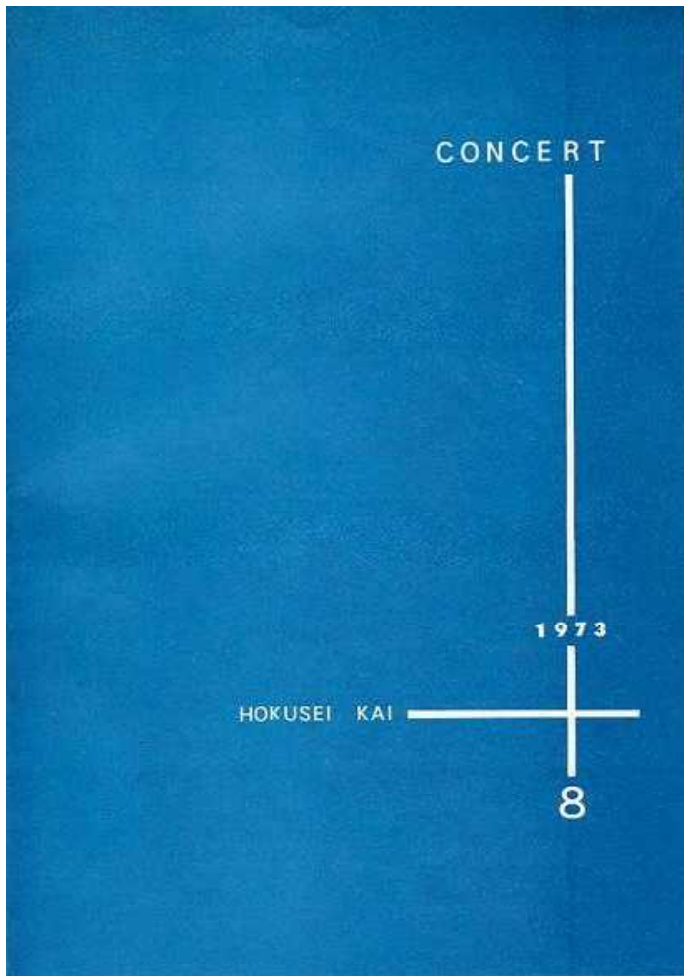


<プログラム>



- 1 なつかしい合唱曲 指揮 千葉了道
伴奏 広田英子
(1) 山彦 ラッソー 作曲
(2) 星の彼方に アプト 作曲
(3) アベ・ベルム・コルプス モーツァルト 作曲
(4) 美しく碧きドナウ ヨハン・シュトラウス 作曲
 - 2 千葉了道作品集 指揮 千葉了道
伴奏 細越啓子
(1) 組曲「河童と蛙」より 作詩 草野心平
(ア) 青イ花
(イ) 祈りの歌
(2) 混声合唱 蘇民 作詩 中村千代吉
 - 3 ポピュラー合唱曲 指揮 石川稔
エレクトーン伴奏 月井盛樹
(1) yester day ジョン・レノン/ポール・マッカートニー 作曲
(2) 雨にぬれても バート・バカラック 作曲
(3) 枯葉 ジョセフ・コスマ 作曲
(4) オー・シャンゼリーゼ シャンソン
 - 4 組曲 北への回帰 作詩 小林純一
作曲 磯部俊
指揮 千葉了道
伴奏 細越啓子
- 序章 磁石
第二章 真昼幻想
第三章 北限の花
第四章 白南風のうた
第五章 憤怒の竜
第六章 春への期待

<指揮者・ピアニスト・役員>

常任指揮者	千葉了道
ピアノ	
委員長	石川稔
副委員長	
会計	
パートリダー	Sop.
	Alt.
	Ten.
	Bas.

<団員名簿・出演者名簿>

< Sop >							
島高岩	山橋泉	房祥久	子子子	朴菊草	館池彌	恵由敏	利希子
金白駒	矢沢木	紀妙枝	子子子	堀藤里	川井館	洋明玉	子子子
近橋村	藤本上	千美和	子子子	佐々木	木々木	々々々	子子子
		洋順昌	子子子	工	藤	真貴子	由美子
< Alt >							
八重	榎山	富喜	子子子	佐々木	木々木	由幸敦	子子子
玉渡	山辺	敬幸	子子子	羽音	々々々	京惠	子子子
金内	山田	久見代	子子子	江船	々々々	越村	子子子
大伊	渡藤	喜芳史	子子子	西	村	牧	子子子
< Ten >							
吉福	田場	睦	郎清	阿田	部中	正二	司郎
馬目	時田	敏政	光昭	佐玉	藤村	敏哲	郎夫
奥	田	康	雄				
< Bas >							
内横	藤田	寛	二涉	照伊	井東	隆精	一洗
競吉	田川	知久	之郎	佐牛	藤越	精	恂恂
石有	藤矢	五	稔男	掛元	川柏	栄	一格
岡	崎	和光	紀男	古	玉		

<主な活動> 昭和48年 1973年
7/28(土) 詩と音楽の夕べ (草野心平氏講演) 県民会館

北声会合唱団

第8回 演奏会

指揮 千葉了道
石川稔
伴奏 広田英子
細越啓子
月井盛樹

とき 1973. 12. 8(土)PM6:30

ところ 岩手県民会館大ホール



ごあいさつ

委員長 石川 稔

岩手県民会館落成記念における「幸あれ芸術の館」の歌声は、我々岩手の音楽愛好者にとって、ようやく「文化」という言葉が響き始めた意義深いものであったことは改めて言うまでもありません。しかし、その陰には永い間真の芸術のあるべき姿を追求してきた音楽サークルや、その他の団体が根強く、しかも着実にその母胎を育て上げて来たことを今一度認識する時でもあります。

我が「北声会合唱団」もその一部として今年の夏、詩人草野心平先生を迎えての「詩と音楽の夕べ」もその意味において大きな意義があったと自負しております。今回の定演は「一人の人間が愛するものを全員で分かち合おう、共に歌おう」という気持でもって例年の演奏旅行を見送り一泊二日の合宿練習に取り組み、団員相互の連帯感に重点を置き、より良いものをとプログラミングにも工夫をこらし皆様に合唱の楽しみ喜びを味わっていただこうと張り切っております。北声会合唱団の発展が岩手の合唱界の発展につながる事を心から念じ一生懸命歌います。

どうか皆様の暖かい御声援をお願い致します。

ごあいさつ

指揮者 千葉了道

定演の日が参りました。

指揮者にとっては勿論、団員も心の引きしまる思いです。定演は長い間の練習の一応のまとめであり、これを契機に更に新しい前進がはじまるものと思います。

練習は、ある時は楽しく、ある時は苦しみです。そして、それらのすべてが今日の演奏の中で楽しく、きびしく、激しく燃える時にいい演奏になるものだと思います。

演奏の良し悪しの責任は、すべて指揮者にあります。指揮者には弁解は許されません。

一生懸命やります。